

USB DACと接続できる注目NAS アサスターならDSD11.2MHzも再生 大容量化時代に期待の機能を検証!

ハイレゾ音源のデータ容量は極めて大きい。最近では、DSD11.2MHzという脅威の情報量を持った音源まで登場しているが、その容量は一曲が1GB近いサイズになっていることもある。そんないまだからこそ、容量の確保は極めて重要なことだ。ネットワークプレーヤーの世界でよく使用されるNASは、容量の確保という点での優位性も発揮する。昨今では、直接USB DACと接続できる機能を備えるモデルも登場しているが、なかでも、本稿で紹介するアサスターは注目したい一台。ベストセラーモデルとして記憶に新しいmicro iDSDと組み合わせれば、直接DSD11.2MHzの音源も再生することができる。その実力を検証したい。

Text by
石原 俊
Shun Ishihara

Photo by 田代法生



今回試聴に使用したのは、アサスターのNAS「AS5002T」(¥53,142／税別、HDD別売)。この他、4つのHDDが搭載できる4ベイモデル「AS5104T」(¥85,523／税別、HDD別売)でも安定した再生が確認できた。USB DACとの接続の際は、リバナルに用意されたAタイプのUSB端子を使用する。

ハイレゾ再生が普及しつつあるいま、最も問題になっているのが「音楽ファイルの保存場所」ではないだろうか。昨今はDSD11.2MHzに代表されるいわゆるスーパーハイレゾデータも増えってきた。これらをパソコンに保存していたら、ハードディスクはあつという間にパンクしてしまう。だから高性能なストレージが欲しい。

アサスターは、パソコンメーカーの一のASUSの出資のもと、オーディオ界でも高い評価を得たQNAPのエンジニア達によって立ち上げられたNASメーカーだ。アサスターのNASには出力にLAN、USB、HDMIなどがついており、汎用機であるから音楽ファイル以外のデータも保存できる。USB DACを直接接続しての音楽ファイルの再生も可能としているのだが、現時点では他のどのNASメーカーも対応していない機能をやつてのけている。それがDSD11.2MHzの再生だ。操作性や安定性の面でまだまだ課題はあるものの、今回はいち早く、その音のボテンシャルについて記したい。

**DSD11.2MHz再生ができる
貴重なUSB DAC接続機能**

●アサスターのNASとUSB DACを直接接続する方法

昨今NASには、USB DACと直接接続できる機能を有したモデルが登場している。アサスターのNASもその中のひとつだが、まだまだ発展途上にあるためきちんと接続できるUSB DACは限られている。そんななかで、iFiオーディオのmicor iDSDとは安定した接続を実現している。しかも、micro iDSDが対応するDSD 11.2MHz音源もダイレクトに再生できるのだ。これは、現時点(2015年7月)ではアサスターのNASが唯一対応している機能である。

まだまだ使い勝手に関しては完成されているとはいえないものの、micro iDSDとの接続ではギャップレス再生にも対応しているなど、秘めたボテンシャルは高い。

ここではアサスターのNASとUSB DACの組み合わせで音を出力するため、抑えておくべきポイントを解説しておこう。なお、同社のNASは、ネットオーディオに定評あるオリオスペックでのご購入をお薦めだ。

(編集部)

※アサスターのNASはHDD別売のNASだ。HDDの互換性に関しては、同社のサイト(<http://unistar.jp/asustor/>)にて要確認。

※本項では、購入後NASとしてのセットアップが終了した段階から解説。

【再生の前に注意したいこと】

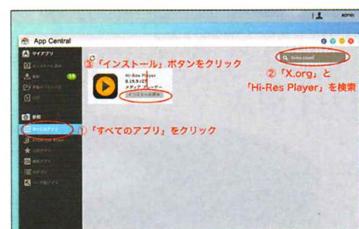
アサスターのNASでUSB DACの直接接続機能を使用するためには、同社の接続・設定アプリケーションであるControl Centerが必須となる(製品付属のCD-R、もしくはアサスターの本国サイトからダウンロードが可能)



【必要なアプリケーションをインストールする】



①まずはControl Centerを起動してNASに接続。ブラウザにてNASの設定画面が表示されるので、ログイン。すると写真のような画面が表示されるので、「App Central」をクリック



②App Central内左カラムにある「全てのアプリケーション」をクリックして、「X.org」と「Hi-Res Player」を検索してインストールする(インストールはControl Center上にて自動で終了)



③インストールが終わったら、左カラムの「インストール済みのアプリ」から「X.org」と「Hi-Res Player」をオンにする。その後、App Centralウインドウの右上の「×」アイコンでウインドウを閉じる。これで準備は完了だ

【専用アプリ「Hi-Res Player」で設定&操作】



①トップよりインストールした「Hi-Res Player」というアイコンをクリック。起動すると、ウェブブラウザにて、「Hi-Res Player」が立ち上がる



②まずは画面右側の設定アイコンより、USB DAC直結接続にあたる基本設定を行う。設定ウインドウを下にスクロールしていくと「Audio Outputs」という欄があるので、そこで接続するUSB DACの欄(今回は「iFi(by AMR) HD USB AUDIO」)をオンにする。アプリの開発者は、USB DAC以外の出力を全てオフにすることを推奨している



③次に画面右側のアイコン(写真の赤い○の所)をクリックして、音源が入っているライブラリを指定。決まったら「OK」を押す



④後は画面左カラムから聴きたい音源が入ったフォルダをダブルクリック。すると画面右側のプレイリストウインドウに音源が追加されるので、聴きたい曲を選んでクリックすれば再生が行われる

●Point: 楽曲を追加したら必ず更新!



新しい楽曲をNASに追加した場合、そのままでは「Music Collection」欄には反映されない。左の「Hi-Res Player」チャートの②の設定アイコンを開いて中程にある「Update Music Collection Now!」をクリックする必要がある。なお、この機能はアプリ起動時に自動的に更新される設定にもできる

一度設定すればパソコンいらず! スマートフォンで操作也可能



基本的な設定が終われば、スマートフォンで操作することが可能だ。iOSデバイスの場合には「MPoD」という汎用のコントロールアプリが使用可能。こちらもまだ動作の安定性に課題はあるものの、ひと通りの機能を実践することができる

※もしもアプリがフリーズするようになってしまった場合は、いちど端末から削除して、再インストールすればスムーズな動作となる。この辺りの安定性は、今後のアップデートに期待したい

DSD 11.2MHzが聴ける 音源の容量を気にせずに

今回試聴に使用したのは、M A C 環境でもDSD 11.2MHz再生に対応するiFiオーディオのmicro iDSDと、アサスターのAS5002Tというモデルだ。この組み合わせから鳴る音は、いやほや素晴らしいのひとつである。オーディオ用途に特化したNASのいくつかにも優るところである。やはり汎用のプレイヤーソフトを介さない、NASのUSB直結には限りないメリットがあるようだ。しかも、アサスターには現時点では貴重となるDSD 11.2MHz再生対応という魅力がある。

DSD 11.2MHz音源を何曲か聴いた時には、これは大変なことになつたと思った。最後の最後になつたと思った。モーツアルトの弦楽五重奏曲ト短調は、本誌試聴室に生身の弦楽器奏者が出現したかのようなりアリズムだったのだ。これまで私が聴いてきたのは何だったのか。もつとたくさん音楽を、容量を気にすることなくDSD 11.2MHzで聴いてみたい。それまでは絶対に死ぬわけにはいかないとさえ感じた。